

経営比較分析表（令和元年度決算）

静岡県 御前崎市

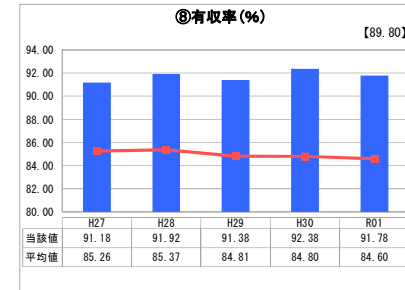
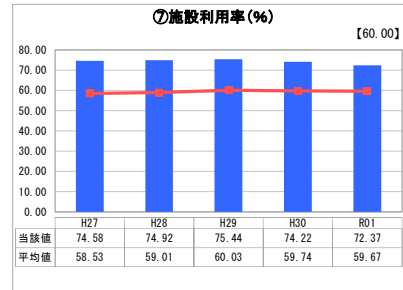
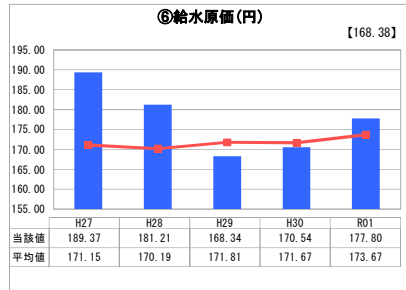
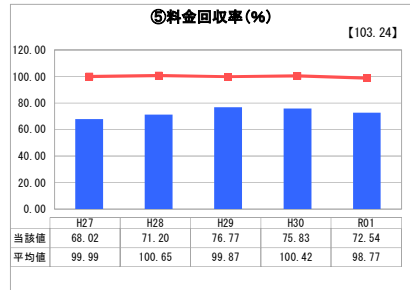
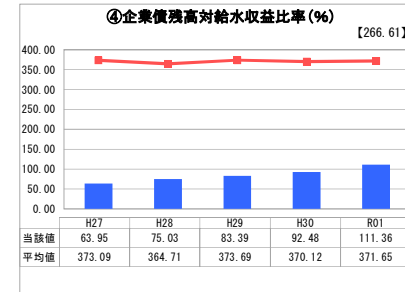
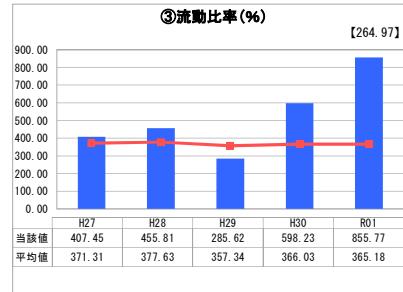
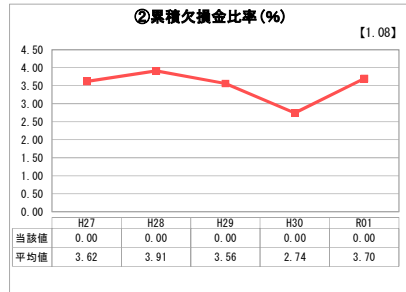
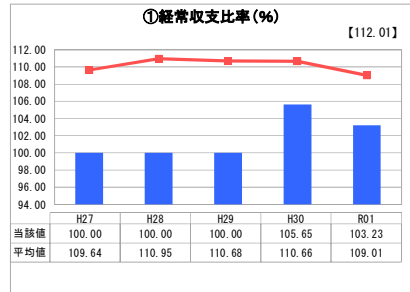
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	91.95	99.88	2,420	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
32,305	65.56	492.75
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
32,509	47.76	680.67

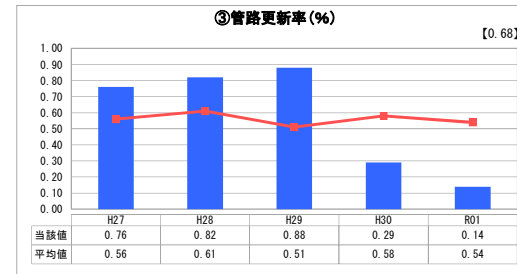
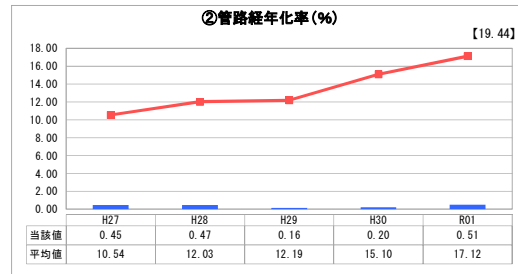
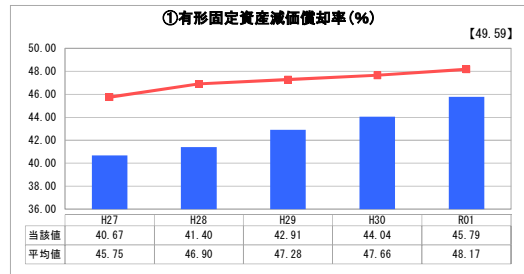
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

一般会計からの繰入金により、類似団体と比較して低価格で水を供給している。その結果、経常収支比率・料金回収率ともに低くなっている。現状は、給水にかかる費用が料金収入で賸り切れておらず、独立採算による経営が成されていないため、累積欠損金は無いものの不健全な経営状況である。

また、将来の更新需要等に備えるため、建設改良費を減額し企業債当座を引き上げたことにより、現金が増加し流動比率が高くなった。

2. 老朽化の状況について

平成30年度に策定した老朽管更新計画に基づき、適切に老朽管の更新を行っているため、管路経年率が低く、有収率が高くなっている。

また、管路工事の件数が減少し、かつ、新設管の割合が多かったため、管路更新率が低くなっている。

全体総括

地方公営企業の特別会計におけるその経費は、その経営に伴う収入をもって充てることが原則であり、現在の供給単価から給水原価を差し引いた損金は、早急に改善すべき点である。当面の間は、自己資金の活用により、単年度決算での純損失は生じない見込みであるが、健全経営とは言えず、料金改定を含めた経営の見直しをする必要がある。

そこで、令和3年度に上下水道料金等審議会を設置し、適正料金の検討を回り経営の見直しをする。